

# 国産ロボ使い肝切除

## 徳大病院、中四国で初

徳島大学病院は、国産の手術支援ロボット「hinotori (ヒノトリ)」を使った肝切除に中四国で初めて成功した。国内では手術支援ロボットを使った肝切除は主に米国製の「ダビンチ」で行われ、ヒノトリは100例に満たない。ヒノトリはダビンチに比べ補助者がサポートしやすい機器の配置になっているのが特長で、病院は今後、ヒノトリを活用していく。

患者は過去に切除した大腸がんが肝臓に転移して再発した県内の60代男性。手術は7月26日に行われた。腹部に直径8ミリの穴を4カ所開け、そこから内視鏡カメラや電気メスなどの器具を体内に入れて、肝臓の左側上部7分の1程度を切除した。

手術時間は開腹手術とほぼ同じ約3時間。出血量は10ミリと開腹の10分の1、

置を手伝えるメリットがある。

徳島大学病院には日本肝胆膵外科学会と日本内視鏡

ダビンチの3分の1で済んだ。体への負担を抑えられたため術後の経過も良好で、既に退院したという。

県内でヒノトリを設置しているのは徳島大学病院だけ。2021年4月に導入し、これまでに胃がんや大腸がんなど約40例の手術実績がある。患者の近くにスペースができるようなロボットアームの配置になっており、そこで別の医師が処



ヒノトリを使った肝切除手術の様子  
＝徳島大学病院 (病院提供)

学会が認定するプロクター(指導医)が2人おり、全国でも人材は充実している。今回の手術も、ともにプロクターの森根裕二医師(53)と齋藤裕医師(41)が行った。森根医師は「ヒノトリの導入で、安全で高度な医療を提供するための選択肢が増えた。ヒノトリを活用した手術を積極的に行っていきたい」と話した。(青木忍)